

市民グループなどが保存を求めている旧中島飛行機武蔵製作所の変電室＝武蔵野市緑町2丁目

空襲の生き証人保存を

武蔵野市民「戦争遺産に」

武蔵野市の都営武蔵野アパート(緑町2丁目)に残る旧中島飛行機武蔵製作所の変電室をめぐる、市民グループなどが保存を求めている。激しい空襲を耐え抜いた同製作所の「生き証人」だが、アパートの建て替え工事で取り壊される恐れがあるからだ。市もグループなどに足並みをそろえ、近く戦争遺産として都に保全・活用を要望する。
(佐藤清孝)

旧中島飛行機武蔵製作所の変電室



この建物は、都立武蔵野中央公園に隣接した都営アパートの3号棟と4号棟の間にある。鉄筋コンクリート造りの2階建てで、建築面積は約160平方メートル。同製作所の南側にあった工具工場に付属する変電室で、内部に変電器を設置していたらしい。

同製作所は当時、日本有数の軍需工場で、米軍の標的になった。1944年11月から9回に及ぶB29爆撃機による空襲で主要な工場は壊滅したが、変電室は鉄筋の建物としては唯一残っている。今は「管理事務室」として都の倉庫のほか、アパート自治会が集会所などとして使っている。保存を求めて運動している

中島飛行機武蔵製作所 三重工業と肩を並べた軍用機メーカー、中島飛行機が零戦などの航空機のエンジンを製造した軍需工場。

1943年に陸軍専用工場武蔵野製作所と海軍専用工場多摩製作所が合併して誕生した。

「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」(川村善一郎代表)。変電室についての調査や資料集めを市に要請し、2009年6月、保存に向けて都へ働きかけるよう市に要望書を出した。これに対して市も今年1月、前向きな姿勢を示す回答をした。

都によると、都営武蔵野アパート(620戸)の建て替え工事は04年度から始まり、管理事務室の近くにある1、3号棟は解体されて新築工事中で、残るのは4、8号棟だけという。

この5棟の住民には今年11月ごろに引っ越ししてもらった後、11年に解体する予定だが、都は変電室について「今後どう取り扱うか現時点では未定」(西部住宅建設事務所)と話す。また、住宅5棟の解体後は広さ約1畝の更地になる予定だが、この活用方

生した。昼夜2万5千人が交代で働いたという。戦後、西側が米軍立川基地の将校家族用宿舎として使われた後に返還され、都立武蔵野中央公園として開園した。東側は都営住宅やNIT武蔵野研究開発センター、武蔵野市役所などになっている。

法も決まっていないという。記録する会事務局の秋山昌文さん(74)は「戦争中、製作所周辺には高射砲陣地があり、我々子どもたちは爆弾の雨の中を逃げまどった。旧変電室を残すことで平和につなげたい」と強調する。

アパート自治会も保存を求めており、3月中旬にも記録する会などと連名で都に要望書を出す予定だ。会長の平田昭虎さん(76)は「未利用地全体を都立公園として広げ、市が旧変電室を借りて管理できないか」と話す。

市は「未利用地の中にある建物だけを市が買うわけにはいかず、かといって用地全体を買う財政的な余裕はない」と説明。記録する会や自治会などと歩調を合わせ、「旧変電室を平和資料館として活用してほしい」と都に公園拡充を求めている。